



マイルカ

分類 鯨目 齒鯨亜目 マイルカ科 (哺乳類)

学名 *Delphinus delphis*

英名 Common dolphin

イルカ類と人間とのかかわりあいは何時の頃からあったであろうか。ノルウェー北部のロイド地方の岩壁には鉄器類の全くなかった石器時代の紀元前約2200年前、現在から数えて約4200年前に多分火打石(当時既に火は使用していた)の鋭い断片で刻みこまれたと思われる、2頭のイルカと1頭のアザラシを1人の男(女ではないであろう)が乗ったがボートで追尾しているさまが画かれている。現存する絵画の中で鯨類を画いたものとしては最古のもので、漁撈していたかどうかの確たる証明はないが、可能性は充分にあったものと推察される。もっと精密に画かれたイルカが同じくノルウェーのスコゲルヴェイン地方の岩壁から発見されている。

分布は英名の Common dolphin の如く大西洋海域では最も普通に見られ、印度洋・太平洋にも分布するが、あまり寒冷なる海域には分布しない。我が国では沖縄から北海道にかけて分布回遊し、九州から沖縄にかけて多く本州海域へ来遊するものは100頭程度の小群が普通である。沿岸にはあまり近寄らず、他の鯨類に追われて沿岸に大挙来襲捕獲される事がある。伊豆地方の安良里でのイルカ漁は殊に有名である。

マイルカの体形は典型的なイルカ型と呼ばれる完全なる紡錘形で、別名ズメイルカと言われるくらい嘴(クチバシ=口吻)が細長く突出して目の廻りからの印象では小鳥を思わせる程である。イルカの英名は Dolphin で、魚類のシラも同じ Dolphin であるので、翻訳のさいには注意する必要がある。マイルカにくらべて嘴があまり突出せず、頭が丸まったメガネスジイルカ (*Stenella styx*) は Porpoise と呼ばれるが、嘴の全くないハナジロカマイルカ (*Lagenorhynchus albirostris*)

は Dolphin であるので、英語の俗名による外形の判断は危険である。

体色は極めて特色的で、背部は暗黒色で腹部は白色であるが背鰭のやや下方で交叉する二つの弧で囲まれた部分はネズミ色又は黄土色となっている。眼の後方には肛門まで延びる二条のネズミ色か黄褐色の線が平行して見られ、アメリカマイルカ (*Delphinus bairdi*, Pacific dolphin) にはこの線が全く見られず、アフリカの喜望峯付近に生息分布するハセイルカ (*Dolphinvs capensis* Cape dolphin) は一条の線でマイルカより色が淡いので、はっきりと識別される。

イルカ類は漁船やカーフェリーの船付近で船とたわむれるように泳ぐこともあるので、他の鯨類より一般に馴れみ深いものがある。高速船とも同様に競泳し瞬間速度は30ノットに達するものもあって駆逐艦なみの高速力である。このような高速力は何に起因するのであろうか。魚類の表面を被うヌルヌルとした粘液を溶かした水で粘性を測定すると粘性が減少するので、イルカもこのような高分子物質を体側面の水に溶かしながら泳ぐものとする、抵抗の少ない水の中を泳ぐことになるので小さい馬力で高速力が得られるかもしれない。泳ぐときは体側の表面に沿って流れが生じ体の後半部には渦が出来るので渦による乱流が前進抵抗を急激に増加させる。魚類は鱗が渦の発生を消し去るような役割をはたし、遊泳抵抗を減少させているかもしれない。イルカは体表面に生ずる表皮のシワ(皮膚の凹凸の波)がこの役目をしていることが、二・三の実験により確認されているがまだ定説とはなっていない。

マイルカ

分類: 鯨目 齒鯨亜目 マイルカ科 (哺乳類)

学名: *Delphinus delphis*

英名: Common dolphin

全世界、温帯から熱帯海域に分布し、北アメリカ沿岸に生息するハアメリカマイルカ (*Delphinus bairdi*)、南アフリカ沿岸に生息するハセイルカ (*Delphinus capensis*) と呼ばれる。群をなして沖合を回遊するが、夏は日本海に大規模な回遊が、日中、小規模な行動もよく見られる。体長2m前後、体形は典型的な紡錘形で背鰭は中位に付く。背鰭の縁が鋸状に曲がる。見つけると直角三角形の付く。体色は背側は黒色、腹部は白色で背鰭の下に丸い斑がある。食餌はイワシ、サバ等群集性魚類、他、カタクチイワシも捕食する。伊豆地方ではスジイルカ、コトマイルカと呼ぶイルカは日本沿岸に生息する。元来混同呼称される。



サンマリノ 1966



ソ連 1971



北朝鮮 1961



ブルガリア 1961